

令和 7 年 8 月 28 日

令和 7 年度病害虫防除技術情報（第 5 号）

和歌山県農作物病害虫防除所

斑点米カメムシ類の防除を徹底しましょう

県北部の一部、県中部のほ場において斑点米カメムシ類の発生が多くなっています。防除を徹底しましょう。

1. 対象作物 普通期水稻
2. 対象地域 県北部、県中部
3. 対象病害虫 斑点米カメムシ類
(クモヘリカメムシ (写真 1)、ホソハリカメムシ (写真 2)、
ミナミアオカメムシ (写真 3)、シラホシカメムシ (写真 4) 等)
4. 発生程度 県北部：やや少、県中部：やや多
5. 発生の状況と今後の予想
 - 1) 8 月上旬の県北部における斑点米カメムシ類すくい取り調査の発生ほ場率は 60 % (平年 76 %)、ほ場あたり虫数は 2.7 頭 (平年 9.1 頭) であったが (表 1)、県北部の一部ほ場では 20 頭の斑点米カメムシ類が確認され、その多くはシラホシカメムシであった。
 - 2) 8 月上旬の県中部における斑点米カメムシ類すくい取り調査の発生ほ場率は 100 % (平年 84 %)、ほ場あたり虫数は 19.3 頭 (平年 6.9 頭) であった (表 2)。また、県中部で確認された斑点米カメムシ類には、登熟後期まで被害が続く大型の斑点米カメムシ類 (クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、ミナミアオカメムシ) が多かった。
 - 3) 8 月 1 日から 8 月 20 日までの予察灯による斑点米カメムシ類の誘殺数は、紀の川市 120 頭 (平年 175.3 頭)、上富田町 19 頭 (平年 12.2 頭) であった。
 - 4) 大阪管区気象台の発表によると、近畿地方の向こう 1 か月 (8 月 23 日～9 月 22 日) の平均気温は高い確率が 80 %、降水量は少ない確率が 50 %である。今後、斑点米カメムシ類の発生に好適な気象条件が続くことが予想される。
6. 防除上の注意事項
 - 1) 出穂直前以降に畦畔等本田周辺を除草すると、斑点米カメムシ類の本田への侵入を助長する恐れがあるため、控える。除草は、近隣ほ場の完熟期以後に行う。
 - 2) 水田内のノビエやイヌホタルイは、斑点米カメムシ類の増殖源となることから、確

実に除草する。

- 3) 大型の斑点米カメムシ類（クモヘリカメムシ、ミナミアオカメムシ、ホソハリカメムシ等）が発生しているほ場では、乳熟期～糊熟期に薬剤を散布する。
- 4) 防除薬剤については、最新の登録情報（農林水産省 農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp/>）を参照し、適正に使用する。

表 1 県北部における 8 月上旬の斑点米カメムシ類発生状況

	平成				令和							令和7年
	27年	28年	29年	30年	元年	2年	3年	4年	5年	6年	平年	(本年)
発生ほ場率(%)	50	88	100	78	88	38	75	90	63	90	76	60
すくい取り虫数(頭/ほ場)	3.0	7.5	6.8	19.8	11.1	3.0	9.6	6.7	7.4	16.0	9.1	2.7

※すくい取り虫数は、本田内における捕虫網 20 回振りによる捕獲虫数。

表 2 県中部における 8 月上旬の斑点米カメムシ類発生状況

	平成				令和							令和7年
	27年	28年	29年	30年	元年	2年	3年	4年	5年	6年	平年	(本年)
発生ほ場率(%)	100	100	83	80	100	100	75	40	75	83	84	100
すくい取り虫数(頭/ほ場)	10.0	6.8	12.3	8.8	9.5	7.8	2.5	1.0	4.8	6.0	6.9	19.3

※すくい取り虫数は、本田内における捕虫網 20 回振りによる捕獲虫数。



写真 1 クモヘリカメムシ

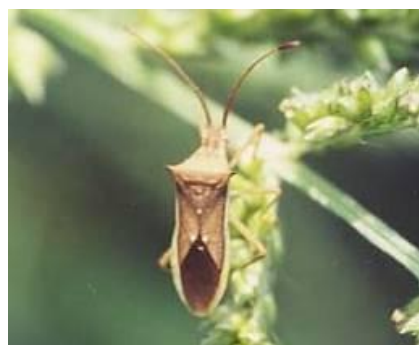


写真 2 ホソハリカメムシ



写真 3 ミナミアオカメムシ



写真 4 シラホシカメムシ

和歌山県農作物病虫害防除所
電話：0736(64)2300